

令和4年3月15日（火曜日）

予算決算委員会 経済観光分科会

本会議場

出席委員

井上太良、中西祥子、山崎陽介、竹尾浩司、  
阿山正人、井川一善、三和 衛、森由紀子、  
三木和成、金内義和

再開 9時56分

農業委員会事務局 9時56分

送付議案説明

・議案第1号 令和4年度姫路市一般会計予算

質疑 9時58分

質問なし

農業委員会事務局終了 9時59分

【経済観光委員会（農業委員会事務局）の審査】

【経済観光委員会（観光スポーツ局）の審査】

観光スポーツ局 11時19分

送付議案説明

・議案第1号 令和4年度姫路市一般会計予算  
・議案第13号 令和3年度姫路市一般会計補正予算（第12回）

質疑 11時38分

（質問）

新規事業のスポーツメディカルの普及について、その内容は非常によいものであるが、学校の部活動で指導する教師やスポーツクラブ21などの指導員がスポーツメディカルの知識を持って活動できるよう取り組む必要があることを考えると、300万円の予算では少ないのではないかと感じる。どのように事業を進めていこうとしているのか。

（答弁）

スポーツメディカルに関しては令和3年度から取り組んでいるところであるが、まだ大規模な事業にはなっていない。

令和4年2月には、県立リハビリテーションセンターの医師を招き、スポーツクラブ21の関係者や体育協会の競技役員、スポーツ少年団の関係者などに向け

たスポーツメディカルの講演会を開催した。

令和4年度は、参加人数を増やして著名人を招き、より大規模な講演会等を開催することで、スポーツメディカルの重要性について市民に周知し、その機運を高めることとしたい。

将来的には、スポーツメディカルに対応したリハビリテーションに取り組める施設を国や県と連携して設置するなど、子どもたちやトップアスリートが安心してスポーツをすることができるよう取り組んでいきたい。

（要望）

非常によい取組だと思われるため、しっかり取り組んでもらいたい。

学校を回って少年野球や野球部の子どもたち向けの予防医学の周知に取り組んでいる人々もいる。著名人による講演を行い、広くスポーツメディカルを周知することも重要であるが、地道に活動している市内関係者とも十分に連携を図ってもらいたい。

（質問）

新規事業のゼロカーボンキャッスルの推進は、城内で使用する高圧電力を再生可能エネルギーに100%切り替えるとのことであるが、現在の最大電力使用料はどの程度なのか。

また、どのように切り替えるのか。ライトアップ点灯式やライトアップイベント等も計画しているが、夜間に使用する電力も再生可能エネルギーに切り替えようとしているのか。

さらに、電気自動車を1台導入するとのことであるが、姫路城管理事務所は何台の自動車を所有しているのか。

（答弁）

現在、姫路城で使用する電力については他の一般的な施設と合わせ、一括して契約しているが、姫路城で個別に契約することにより、RE100に切り替える予定である。

姫路城全体の電気代は、現在約1,200万円であるが、天守のライトアップに係る経費が大部分を占めている。姫路城ライトアップのLED化に伴い、4~6割、600万円前後の経費が削減できると考えている。

また、姫路城管理事務所は公用車を2台所有しており、令和4年度は、そのうちの1台を電気自動車に切

り替えようとするものである。

(要望)

姫路城の電力がRE100となったことは一見して分かるものではないため、しっかりと市民にゼロカーボンキャッスルの考え方を周知してもらいたい。

また、せっかくゼロカーボンキャッスルに取り組むのであれば、姫路城管理事務所の所有する自動車を2台とも電気自動車に切り替えるほうがよかったのではないか。予算がつかなかったのかもしれないが、市長が所信表明でうたう重要な事業であるため、しっかりと取り組んでもらいたい。

(質問)

姫路城ライトアップイベントは毎年同時期に開催しているが、開催期間が短いのではないか。他都市で夜間の観光客の誘客のために開催するイベントは、もう少し開催期間が長い。

また、本市への宿泊客を増やすのであれば、市内や近隣市町だけでなく、全国的な周知が必要であるし、開催期間が短ければ周知しても誘客につながりにくい。ある程度の開催期間を確保することで、本市への誘客効果も高まると考えるが、本イベントの開催期間を9日間としているのはなぜか。

(答弁)

イベント開催に当たっては、主に機材や人件費に経費を要しており、開催期間が長くなれば事業経費も高額になる。

令和4年度のライトアップイベントは国の補助金を受け、できるだけ効率的に運営していくつもりであるが、開催期間については9日間で精いっぱいである。

また、開催時期については姫路城が閑散期になった頃を見据えて開催しているため、毎年度同じ時期に開催しているが、周辺の商店街や集客施設との連携が課題であると認識している。

コロナ禍の中でも姫路市が頑張っていることを発信することにもつながるため、可能な限り事前にイベントについて周知するとともに、開催期間の延長については今後の課題として検討したい。

(要望)

鹿児島市では、年末から正月明けまで1か月近くライトアップイベントを開催し、国内外から多くの人を訪れるとのことである。本市でもLED照明を利用し

た長期間開催可能なライトアップを行うなど、市外からも人が訪れるような長期間のイベントについて今後検討してもらいたい。

(質問)

現在教育委員会が所管している美術館、書写の里・美術工芸館、文学館については令和4年度から観光スポーツ局に所管替えを予定しているが、当該施設の予算編成に当たり、どのように観光スポーツ局として関わったのか。

(答弁)

予算編成の際には所管替えについて知り得なかったため関わっていないが、これまでは教育委員会の所管であったため、文化振興に視点が集中していたと思われる。観光スポーツ局は、常に観光客の誘客という観点で業務に取り組んでいるため、その観念に基づいた施策を展開できるのではないかと考えている。

現在、既に取り組んでいる施策に観光スポーツ局の誘客施策などを取り入れるとともに、各施設が本来持つ機能についてもしっかり展開することにより、本市への観光客を増やしていきたい。

(要望)

特に書写の里・美術工芸館は利用者数も伸び悩んでいる。これまでの文化振興の視点等を大切にしながらも、観光振興の視点も含めて、積極的に事業に取り組んでもらいたい。

(質問)

商工費入場料収入、土木費入場料収入、教育費入場料収入がいずれも令和4年度増額となっている。新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ入場料収入を増額したと思われるが、増額の考え方を説明してもらいたい。

(答弁)

新型コロナウイルス感染症の影響により入場料収入が低くなっていたが、令和4年度はある程度回復すると考え、増額している。新型コロナウイルス感染症が流行する前の入場料収入を参考にしている。

姫路城は年間約180万人の入城者数であるが、令和2年度は約39万人、令和3年度は現時点で約39万5,000人と厳しい状況である。令和4年度予算額は80万人を想定して計上しているが、コロナ禍でもできるだけ多くの観光客に訪れてもらえるよう、常に本

市のPRに努めていきたい。

(要望)

令和4年度は新たな姫路市観光戦略プランの初年度であり、プランでもウィズコロナをうたっているが、予算上は慎重な姿勢が感じられる。新型コロナウイルスの流行が落ち着いた際には、多くの観光客に訪れてもらえるよう取り組んでもらいたい。

(質問)

城跡整備費については、令和2年度から3年度にかけて4,980万円減額し、令和4年度にはさらに2,250万円減額している。

トイレの改修は終了したということであるが、令和4年度は630万円の予算をどのように執行するつもりなのか。

(答弁)

城跡整備費は、都市計画決定を受けた68ヘクタールの姫路公園のうち、内堀に囲まれた部分以外の箇所を整備するための予算である。

令和4年度は大手前公園の舗装の張り替えや家老屋敷跡公園の便益施設における死角を解消するための防犯カメラの増設、職員が整備の際に使用するダンブカーの買換えなどを予定している。

(質問)

世界遺産姫路城マラソン開催経費については、令和3年度予算では1億8,590万円であったが、令和4年度は1億7,500万円と1,000万円減額している。

3年連続して大会が中止となったことが運営に影響しているのか。1,000万円減額した理由を説明してもらいたい。

(答弁)

減額した1,000万円は工事請負費であり、以前マラソン当日に小学校のグラウンドを駐車場として利用していた際の地ならしの費用として予算計上していたものである。しかし、現在はおおむね2月末の日曜日に大会を開催しており、スケジュール上グラウンドの工事が不可能であることや別の駐車場を確保できていることなどから、当該工事請負費は不要だと判断したものである。

(質問)

新規事業の電子雑誌等を活用したPR事業について、これまでも様々な観光冊子を紙で作成しているが、

紙媒体の冊子を電子化する事業であるのか。それとも新たに電子の観光冊子を作成しようとしているのか。

(答弁)

有名人等を起用した20ページ程度の観光冊子を、電子媒体を主体に作成する予定である。また、専用のホームページを開設して、動画を作成した上で、広くPRしたいと考えている。

(質問)

既存の観光冊子のデジタル化を主としているのか、それとも新たな電子雑誌の作成を主としているのか、事業の方向性を説明してもらいたい。

(答弁)

デジタル化を推進する意味合いもあるが、特にこれまで姫路城をはじめとした本市の歴史に関心の薄い若年層やファミリー層に向けてデジタルで発信することで、新たな観光客層を獲得していきたいと考えている。

(要望)

市全体でデジタル化を推進していることから、観光スポーツ局としてデジタル化の推進の視点も持ち合わせて事業に取り組んでもらいたい。

(質問)

社会体育施設目的外使用料及び木場ヨットハーバー目的外使用料の内容について説明してもらいたい。

(答弁)

社会体育施設目的外使用料については、各施設に設置している自動販売機の使用料や売店の使用料である。

木場ヨットハーバー目的外使用料については、高圧電線の敷地に係る使用料である。

(質問)

木場ヨットハーバーが市民にとって身近なものではなくなっているように感じる。当該施設を姫路市が維持していく必要性を考えなければならないのではないか。利用を促進していくのであれば、民間事業者への売却なども検討してもらいたいと思うがどうか。

(答弁)

木場ヨットハーバーは市の土地をまちづくり振興機構に無償で貸し出し、同機構が運営しているものであるが、累積赤字が非常に大きいものとなっている。

漁協や周辺のボートの製造会社に意見を聞き、まち

づくりの関係部局とともに施設の在り方について検討していきたい。

(要望)

早急に結論を出す時期に来ていると思う。

全国に視野を広げるとニーズのある施設であると思われるため、しっかりと検討してもらいたい。

(質問)

姫路球場ナイター照明及びスコアボード整備に関して、今後、大会の誘致活動をどのように進めているのか。

(答弁)

兵庫県高等学校野球連盟とナイターで県大会の予選ができないか協議しているところである。

また、在阪球団とは既に協議を重ねており、ある球団は前向きに検討しているとのことである。

姫路球場は西日本で 5 本の指に入るほど評価の高いグラウンドを有しているため、ナイター照明が設置されればぜひ利用したいとの声も聞いており、県内の球団にも働きかけているが、座席数が約 1 万 4,000 席と少ない。ナイター照明の性能の良さなどをアピールしてできるだけ大会を誘致したいと考えている。

(質問)

新しい設備を導入して、これまでより利用頻度を増やそうと考えるのであれば、既存の大会を誘致していかなければならない。

既存の大会は使用球場が固定化しており、姫路球場への誘致は非常に難しいと思われるが、グラウンドの特徴などを含めて、積極的に関係団体に PR してもらいたいどうか。

(答弁)

既存の大会を誘致しなければならないし、誘致に当たっては多大な努力が必要であることは認識している。姫路球場の利用に当たり、何らかの特典をつけるなど積極的に誘致活動を行いたい。市長が在阪球団への PR に取り組んでいるため、観光スポーツ局も積極的に取り組みたい。

(要望)

私自身もアマチュア野球の関係団体と関わりがあるため PR したいと思う。声をかけてもらいたい。

(質問)

ヴァヴェル城姉妹城提携に関して、現在、コンウイ

城やノイシュバンシュタイン城とはどのように連携しているのか。

(答弁)

コンウイ城については、令和 3 年で姉妹城提携 1 周年を迎えたが新型コロナウイルス感染症の影響により、お互いの首長がメッセージを送りあった。また、コンウイ市の歌手が「君が代」を歌う様子を市ホームページに掲載している。

令和 4 年度にコンウイ市の青少年を受け入れることを目指して取り組んでいるところであるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できるかは不明である。

ノイシュバンシュタイン城は観光友好交流協定を締結し、ミラノ万博に際して同城を訪問したが、現在のところ、それ以降の連携は取っていない。

(質問)

姉妹城提携は提携先にとっても友好的に考えてもらいやすい事業であると思うが、姉妹城が増えるにしたがって、その立ち位置が軽いものになってしまうのではないかと危惧している。

姉妹城が増えている一方、市民にはあまり認知されていないのではないかと。新たな姉妹城提携を進めるのもよいが、既に提携している姉妹城の PR を進める必要があると考える。

姉妹城提携はよい取組であるため、姉妹城を周知し、事業が活発なものとなるよう取り組んでもらいたいどうか。

(答弁)

現在は新型コロナウイルス感染症の影響により大規模な事業はできていないが、これまでに提携した城との関係を大切にするとともに、新たな姉妹城提携についても取り組みたい。

MICE、G7 サミットの誘致などの取組を積み重ね、国際都市姫路の発展に向けて努めたい。あわせて、市民への周知もしっかり取り組みたい。

(要望)

ヴァヴェル城の姉妹城提携の際に、他の姉妹城等もあわせて PR できるよう検討してもらいたい。

(質問)

旧文化センター解体撤去工事に係る経費は幾らなのか。また、工事時期はいつなのか。

(答弁)

現在、当該施設は令和4年8月まで新型コロナウイルスワクチンの接種会場として利用されている。ワクチン接種終了後、年末にかけて設計を行い、その後2年間で解体する予定である。

費用は全体で約9億円である。

(要望)

まずはワクチン接種を優先し、県との連携の下、スムーズに工事が進むよう取り組んでもらいたい。

#### **退職者挨拶**

**観光スポーツ局終了** 12時24分

#### **【経済観光委員会の意見取りまとめ】**

**意見取りまとめ** 12時36分

(1)分科会長報告について

・正副分科会長に一任することに決定。

**意見取りまとめ終了** 12時37分

**閉会** 12時37分